

令和7年度

藍住中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ・どのように社会・世界と関わっていくのかを考え、よりよい人生を送るために、理解していること・できることを増やし、これらを活用して課題を解決していく力の育成。
- ・聞くことを大切にし、学習規律を徹底する。

校長

三木 健司

学力向上推進員

戸出 剛

【小中連携における共通の取組】

ICTの効果的な活用と話し合い活動の充実により、児童・生徒の学力向上を図る。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉えて取組状況を把握する。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○基礎的基本的な知識・技能の習得のため、課題に真面目に取り組む生徒が多い。 ●入学時から学力に二極化が見られ、全体として読解力に課題がある。	・授業で学習した内容を概ね理解することができる。 ・基礎的基本的な知識・技能を確実に身につけ、定着させることができる。	・新しい取組を授業に取り入れて公開し、授業改善を行い、タブレットの効果的な活用方法等について研修を行い、個別最適かつ協働的な学びが一体的に充実した授業を展開する。 ・単元の終了後に小テストを行うなど、スモールステップで復習させ、知識・技能を確実に習得させる。	・教員のICT活用事例を校内研修で共有し、全教員が有効活用できるように取り組む。 ・単元ごとに小テストやプリントを行った後の間違い直しなどをきちんとさせる。	・74%の教員が昨年よりICT活用する機会が増えた。 ・単元ごとの小テストやプリントを行い答えを合わせて終わりになり、定期テストや実力テストに同じような問題が出ても同じ間違いをすることが多く見られた。	・ICT活用が増えたことによって、出てきた課題（楽しいだけで終わる・学力定着につながっているか）を解決できるように使う場面等を精査する。 ・繰り返し学習し、基礎・基本の定着を図れるような方策を考える。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○学んだ知識・技能を活用して課題を解決しようとする意欲がある生徒が多い。 ●目的や意図に応じて判断したり、表現したりすることが苦手な生徒が多い。	・文章、図、表の内容を理解して、知識・技能を活用して、正しく判断することができる。 ・授業で学んだことをもとに、自分の意見を目的や意図に応じて表現することができる。	・学力向上確認プリント、ステップアップテスト、全国学力調査の問題を活用して、判断力を培う。 ・根拠や理由をわかりやすく表現する方法を指導し、定期テスト等で表現させ、自信を持たせる。 ・目的な意図に応じて考えたり、意見を言えたりする話し合い活動を多く取り入れる。	・ステップアップテストと全国学力状況調査の結果を分析し、より生徒の実態に沿った方法で指導し、テストにもそのような問題を出題する。	・学力向上確認プリントの使用頻度が少なく、生徒がまだそのような問題形式に慣れていないように感じた。 ・問題で何を問われているかが理解できない生徒がおり、また自分の考えを言語化して書ける生徒が少ないように感じた。	・学力向上プリントの使用頻度を増やし、生徒が読解力を付けられるように、「徳島県版読解力」を意識した授業を展開するように努める。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○ほとんどの生徒が落ち着いて真面目な態度で授業に取り組むことができている。 ●家庭でゲームやスマホをする時間が長く、家庭学習が定着していない生徒が少なくない。	・毎月目標を設定し、振り返りを行うことで、自己肯定感や自己有用感を高めようとする。 ・毎日の自主勉強ノートや宿題を学力向上を目指して取り組もうとする。	・生徒の学習活動に対して全教員がポジティブな行動支援(SWPBS)を継続し、学習意欲を高めていく。 ・自主勉ノートや課題の提出物を確認して、学習がより充実したものになるよう個別の助言を具体的にを行う。	・学習規律を明確にし、生徒が意識できているかを確認し、できていたら褒める。 ・前向きな言葉がけから自信を持たせ、少しずつ授業中に発表する生徒や意見を言える生徒を増やして行く。	・ほとんどの生徒が規律を守り、落ち着いて授業を受けられた。 ・協力校の小学校と授業中のルールを共有できた。 ・話し合い活動を増やしたことにより、以前より意見を言える生徒が増えた。	・小・中で授業中のルールに差がなく、9年間通して一貫した授業ルールで取り組めるようにする。 ・家庭学習の習慣が定着している生徒が少ないので、学校と家庭が協力して学習に取り組めるような方策を考える。